ひと・まち、ゆめ・みなと

翔（はばた）く留萌21
RUMOI CITY
第4次総合計画

Norihiko Naganuma
市長 長沼憲彦

21世紀・留萌の発展のために

心身を醸成する 5「学習都市」生涯学習計画

今月号は、心身を醸成する生涯学習計画をテーマに、幼児からお年寄りまでの学習都市づくりについて考えてみましょう。

昨年開催しました「こんなこと！あんなこと？市民と市長のほっとなトーキング」では、多くの皆さんと懇談することができました。　特に、社会教育関係団体のみなさんからは、教育、文化、スポーツ、生涯学習など、貴重なアイディアや意見がだされました。

その皆さんの声を市政に反映し、健全な心身を育てるための教育、文化、スポーツ、レクリエーション活動の推進はもちろん、21世紀へ向けて留萌市が取り組んでいます学習都市づくりについてご紹介しましょう。

市民が「いつでも」「どこでも」「だれでも」学習できる環境を整備することが望まれています。

激しく移り変わる社会情勢の中で、多種多様化する情報化、国際化、高齢化社会に対応できる知識や技術、教養を身に付け、留萌の豊かさを実現できる、生活環境を築くことが必要です。

将来を担う児童生徒や青少年の育成はもちろん、日常生活を通じての生涯学習活動、スポーツ、文化活動が行えるような、各施設の整備や学習機会の拡充を図ります。

■市政懇談会では、幼児教育や学校教育、生涯教育の環境整備に伴う各施設の改善、または教育機会の充実が求められました。

その市民のニーズに応えるべく、学校教育・社会教育の振興はもちろん、文化・スポーツ活動の促進のために、市民がともに学び、ともに活動する、市民参加の学習都市づくりが必要です。

幼児教育

幼児を抱えるお母さんたちからは、各保育所施設の改善が求められています。幼児期は、人格形成の基礎を培う最も大切な時期です。核家族化、少子化、また、情報過多など家庭の果たすべき教育機能の充実が求められる中で、行政と関係機関との連携を図りながら、保育所の更新や幼稚園の運営に対する支援をすすめます。

学校教育

教育環境の施設や機器の設備を整えるだけではなく、本来、子供たちの持つ知識や能力が十分に発揮できる教育環境が必要なことと考えます。

そのためには、心と心が通う教育の場を築くために、個人と個人、家庭と学校、そして地域社会との連携を図ることが大切なことです。　昨年は、港南中学校と千望高等学校（旧留萌工業高校）が新しくなりました。留萌高等学校においても、早急の改築を促進するとともに、さらに、北光中学校の老朽化に伴う新築は早めなければなりません。

青少年の育成

「根をはろう　全市で　青少年育成」をスローガンに、青少年の豊かな人間性を育むため、学習・文化・スポーツ事業を行っています。昨年はその事業を推進する、青少年健全育成推進員協議会が記念すべき30周年を迎え、記念式典では、さらなる発展を誓いあいました。

自己を高める社会教育の推進を図るために、様々な学習活動の促進と各種学習機会の拡充を進めるとともに、地域リーダーやボランティアを積極的に養成し、新たなまちづくりを創造する、市民参加の場を拡大します。

温水プールが設備される十字街再開発ビル（予定）

EDUCATION

文化財の保護と活用

歴史、風土を生かした芸術、文化活動をさらに発展させるため、市民の創作活動の発表の機会や場の拡充を図ります。ニシン漁で栄えた留萌の歴史を復元整備するため、平成6年に国指定重要民俗文化財となった「ニシン漁撈（旧佐賀家漁場）用具」の整備保存はもちろん、「阿部貞夫版画館」を含む文化ゾーン構想を検討し、総合的な文化・芸術の振興計画の策定が必要であり、その貴重な財産の保護と活用方法に大きな期待が寄せられています。

先人たちが築き上げた貴重な遺産は、留萌の歴史づくりには欠かせません。その財産を整備するとともに、集客効果を高める施設づくりをすすめます。

佐賀家番屋

広く親しむレクリエーション・スポーツ活動の推進

週休2日制の導入、余暇時間の増大等によって、スポーツやレクリエーション人口が年々増加しています。さらに、アウトドアなど屋外における活動など、多種多様化する需要に応えるべき施設づくりが望まれています。社会教育、体育、文化施設など、老朽化した施設の改善または新築を考慮しつつ、各種研修会や各種資格者の活動の場を促進することが必要です。　また、市政懇談会では、サークル活動の場として、各学校の開放事業やコミュニティセンターの利用方法について多くの要望が出されています。

各施設の有効利用を再度見直し、市民のニーズに応えるべき施設の活用方法と整備の充実が求められている中で、近隣の町の施設を利用する方法も打ち出されています。これからの各種公共施設は、広域的な視点観点を持ち、個人、団体が共に活動エリアを拡大し、共に有効利用することが大切なことと考えます。

留萌市第4次総合計画は、スポーツ、レクリエーションなど、広く親しむ環境づくりを目指しています。しかし、各施設が完成した後の有効活用が必要なことと考えます。

例えば、十字街再開発事業に伴う温水プールは、競技をはじめ多目的な用途に使用できるよう配慮していますし、老朽化、狭隘化した各施設の更新を図り、スポーツ、レクリエーション団体やサークル活動が活発に行える場の拡充も大切なことと思います。

現在も、風車を利用した風力発電設備や礼受牧場の整備、C・C・Z整備計画に伴う沖見海岸や浜中海岸の整備など、留萌の新たなシンボルが完成していく中で、賑わいあふれる場を核としたマリンスポーツの振興を図っています。

21世紀初頭には、現在行われている国道231号線の拡幅に伴う、美しい町並みの景観が形成され、さらに、市立総合病院の完成や十字街の再開発、美・サイクル館の運用などによって、豊かな生活環境が確実に築かれます。

自然環境豊かな留萌まちづくりを、今までも、そしてこれからもすすめましょう。